



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。神無月。後期になりました。

さる9月9日は「五節句」の一つで、「**重陽**の節句」という日でした。古来、中国では高いところ(丘など)に登る行事があったり、日本では菊の節句ともいわれ、観菊、菊酒で不老長寿を祝う、などの慣習があったのだとか。

9月10日の「**中秋の名月**」は良かったですね。夜通してっかい満月が見られました。翌朝になっても西の空にぽっかり「**有明の月**」が大きく西の空に残っていました。

9月26日は「気象上の特異日」なんだとか。甚大な被害をもたらした洞爺丸台風(1954年)、狩野川台風(1958年)、伊勢湾台風(1959年)が日本列島をおそった日らしい。

洞爺丸台風は、青函連絡船に甚大な被害があり、その後の連絡船の構造が変わったり、青函トンネル建設の動機ともなったけれども、この台風の余波は、「岩内大火」となり、水上勉の小説『飢餓海峡』の舞台ともなる。そうして、同台風は層雲峡から石北峠あたりの森林をなぎ倒し、北海道を横断していった。その膨大な倒木処理のため、大雪山系の山間や麓の街では林業が盛んになりました。また、石北峠頂上付近には「愛樹霊碑」という、山林の霊を慰める碑が建っており、洞爺丸台風の被害の様子が記されています。



記憶に新しい道内の自然災害としては、4年前の胆振地震、もう少し前には奥尻の南西沖地震、過去何度も繰り返してきた有珠山噴火、十勝岳噴火や十勝沖地震など、道内にも結構大規模災害は起きています。

ボクは、大学の先生が関東大震災の経験者で、「瓦解」の様子を聞いたことがあります。来年、関東大震災100周年を迎えますが、当時はそんなに昔のことでもないんだなという気もしました。

総じて気温が高く推移した今年の夏でしたが、めっきり涼しくなり、日足も短くなってきました。課外講習を終える頃には、赤い夕日が校舎を染める、そんな季節になりました。この時期になると、初任の頃、「校内漢字コンクール」という全校挙げての漢字力テストで、ことわざを出しましたことを思い出します。空欄に当てはまる2字を答える問題です。

「暑さ寒さも□□まで」。さあ、答は?

傑作だったのは「お盆」です。たしかにオホーツク沿岸の街では、お盆の頃にはストーブを焚くほど寒くなることもあり、暑い夏の寒い夏のいってもお盆で夏は決定的に終止符を打つのだ、という感覚からか?

正解は「彼岸」です。寒い寒いといっても春の彼岸を過ぎる頃には次第に気温は上がってくるし、暑い暑いといっても秋の彼岸を過ぎれば次第に涼しくなってくるという、内地の気候感覚から生まれたことわざですね。

10月になりましたが、神様も不在のようですので、まだまだ台風などにもご注意を。10月からは、年度の後半です。生徒会役員も改選され、新メンバーの活躍を期待しています。前役員はご苦労様でした。

『飢餓海峡(上)(下)』 水上勉 新潮文庫

『泥流地帯』『続・泥流地帯』 三浦綾子 新潮文庫

三浦綾子生誕100年の今年、ぜひいくつか読んでみよう!

『氷点』や『塩狩峠』に挑戦してみよう!

と、ここで「北海道関連の小説も大いに読もう!」と呼び掛けようと思ひ、はて、**桜木紫乃**さんの作品なんか、どのくらいあるのだろうと検索してみたら、3冊の蔵書登録がありました。ところが!あの映画化もされた『ホテルローヤル』が5年も前に貸し出されたままになっているではありませんか!そこで、この**10年間に貸し出されたまま返却されていない「卒業生」**のリストアップをすると、8名、13冊もありました。前任の担当者が督促しなかったのか、督促しても返してくれなかったのかわかりませんが、わりと人気の作家だったり話題の書籍だったりしますので、その後借りたくても借りられなかった人もいただろうと思います。次期購入書リストに入れて補充しようかと思いますが、みなさんの中にも延滞している本がありましたら、**至急返却**しましょう。

読書の秋

「●●の秋」みなさんがまず思い浮かぶのは、何の秋でしょう？

図書館がお勧めするのはもちろん読書です。

読書週間 10月27日～11月9日は「読書週間」です。なんだか中途半端な日付のような気もしますが、これは11月3日の「文化の日」をはさんだ2週間ということになっています。戦後の1947年に始まり、今年で第76回。今年の標語は「この1冊に、ありがとう」だそうです。

文字・活字文化の日 2005(平成17)年に、「文字・活字文化振興法」という法律が制定され、読書週間の初日である、10月27日を「文字・活字文化の日」としました。休日(祝日)ではありませんが、法律に定められた記念日であります。

古典の日 2008(平成20)年、「古典に関する法律」が成立し、11月1日を「古典の日」としました。これも法律に定めのある記念日ですが、そのいわれは、この年、『源氏物語』が執筆されてから1000年を迎えるということで、瀬戸内寂聴氏らが、「古典の日」制定を提唱したことに由来します。「源氏物語千年紀」の行事、映画(生田斗真主演)の上映などがありました。美しい映画でした。

この法律に規定された「古典」とは、日本の古典文学ばかりではなく、漢詩、囲碁、クラシック音楽、海外文芸の翻訳、武道といった身体文化、茶道、華道、書道など広範に亘り、時代としては明治まで含むとされています。

法律では、国や自治体はその振興を図る施策を講ずるよう規定しています。

一人称切り替え型小説

こんなネーミングがあるのかどうか知らないけれど、小説で、章ごとに一人称が切り替わる小説ってあるよね？

ごく簡単に例えば、恋人でも婚約者でもいいんだけど、男女二人の登場人物がいるとする。章ごとに、語り手が男になったり女になったり。つまり、男が語り手だと、一人称は「おれ」とか「ぼく」で語られる。勿論、視点も男の視点だ。逆に、女が語り手となると、一人称が「私」で語られ、女の心理で話が進められる。あるいは、「いじめっ子」と「いじめられっ子」が、大人になって、それぞれの視点で子ども時代が語られる小説とか。こういうタイプの小説がやたらと増えているような気がします。まあ、連続短編を読んでいるようで、飽きが来なくていいのかもしれないけれど。こういう造りの小説を、「一人称切り替え型小説」と名付けていいものだろうか？すでに適切なネーミングが行われているものなのだろうか、不勉強にして、知らない。誰か教えてほしい。

～ ことばつれづれ ～

まずは「しのびの運動から」

どうも「ラジオ体操第1」の、最初の運動のかけ声が、「まずはしのびの運動から」って、聞こえるんだよねえ。ホントは「背伸びの運動」なんだけど。

定年より前に「どうも耳の聞こえが良くないから」って退職された先輩がいたことを思い出します。そんなに聞こえが悪くなるものなんだろうか、と不思議だった覚えがあります。

「定年退職なんてかっこわるいから」って、定年前に退職された先輩もいました。

「定年だといろいろ文集や広報誌なんかに挨拶の文を書かされたりするのが面倒だから」といって、前年に退職された先輩もいました。

「もう疲れた」といって、定年を待たずに退職された先輩は何人もいました。

こんなふうに定年を待たずに、あるいは定年を目前にして辞められた先輩教師がけっこういたのを思い出します。自分もそんな年齢になってきたのだけれど、いまは「定年と言われるのはかっこわるい」とか、「挨拶したり文章書くのが面倒」とは言ってもらえない。だって定年から5年間は無給になっちゃうからね。はたらかなきゃ。「しのびの運動」をしてでも。



過去形にせよ

オリビア・ニュートン=ジョンが亡くなりました。中学高校生の頃、彼女の英語の歌詞を覚えたものでした。高校生の頃は、もうこれ以上勉強したら外人になっちゃうんじゃないかっていうくらい、英語の勉強をいたしました。ボクの大好きな英語小咄^{こぼなし}です。

問 「次の英文を過去形にせよ。She lives in Tokyo.」

答 「She lives in Edo.」

オーディエンス

先日ラジオで「オーディエンス」ということばを耳にしました。テレビの視聴者、ラジオの聴取者、という意味です。これまでラジオの聴取者は、「リスナー」という言い方が一般的でなかったか、変わったのかなあ、と思いました。いや、ラ講(むかし「大学受験ラジオ講座」という、旺文社のラジオ講座がありました)や、「小沢昭一の小沢昭一的ところ」を聞いていた頃は、はて、リスナーって言ってたっけか?などと思った次第。

ボクがみなさんのような年の頃は、ラジオ番組に投稿するには、もっぱら「ハガキ」でした。NHKの旭川放送局の住所は憶えやすかったなあ。なにしろ、「あて先は、旭川市6の6 NHK 旭川放送局まで」だもんな。なんて簡単な住所なんだろうって、思っていました。

そして、投稿者は「ペンネーム〇〇さん」って紹介(読み上げ)されていました。ところがいつのころからか、これが「ラジオネーム」に変わっていますよね。パソコンの時代になって、「ハンドルネーム」なんてのが出てきたからなんでしょうか?

ラジオのリスナーがオーディエンスになり、ペンネームがラジオネームになり、あて先が日本語住所からローマ字の羅列(メールアドレス)になったのは、こころざしに20年ばかりのことでしょうか。

も一つついでに、ボくらがキミたちの年代の頃は、雑誌なんか「文通欄」というのがあって、文通を希望する人が自分の住所を公開(掲載)してたもんです。芸能人の住所なんか、その筋の雑誌なんかでは公開されていたようです。それから、学者が書いた本の奥付などには、その著者の住所が書いてあったものです。ですから、日本全国はおろか海外の人とも盛んに文通が行われたり、スターにファンレターをダイレクトに届けたり、学者に質問も送ることが出来ました。「個人情報」なんていう言葉がなかったころの話ですが、これだってほんの数十年前、ボクがキミたちの年頃の話です。時代は一気に大きく変わるものです。キミたちがボくらりの年になる頃には、いったいどんな世の中になっていることでしょうか。



楽曲 アーティスト リリース カバー

「ラジオネーム」で思い出しました。他にもありました。昔は使わなかったことばたちを。

いわく、楽曲、アーティスト、リリース、カバー。

昔は「楽曲」なんて言い方しなかったと思います。歌手が歌うのは「歌」または「曲」でした。最近「楽曲」という重厚な言い回しがもてはやされているようです。なんだか、ベートーベンやバッハが作曲した曲のように聞こえてしまいます。

「アーティスト」って、芸術家っていう意味だって、中学の時覚えたような。たしかに、単語の意味・用法にはいくつもあるだろうけど、歌手がアーティストかあ。『明鏡』国語辞典には、アーティストの意味をこう解説する。「芸術家。特に美術家。近年、歌手・演奏家の意で使うことも多い。」

「リリース」は、もちろん双子ではなく、特にCDの発売を言う際に耳にすることが多いが、新刊書の発売、映画の封切りをも言うらしい。で、なぜ、発売開始と言わないんだろうか。日本語だとカッチョワルイだろうか。

「カバー」にいたっては最初、「何?」「覆う?隠す?」徳永英明が中島みゆきにかぶさった?いやいや、「時代」という中島みゆきの歌を徳永英明が歌った、CD化した、ということだったんですね。これも『明鏡』国語辞典に

は説明されていて、「過去に発表された楽曲を別のアーティストが演奏し、録音して発表すること」とあります。ちゃんといまどきの「アーティスト」「楽曲」も使われています。『新明解』国語辞典は、最新の第8版になってようやく「歌手やミュージシャンが別の歌手やミュージシャンの持ち歌(曲)を歌う(演奏する・レコーディングする)こと。」という解説が入りました。それくらい「新しいことば」、と云うことなんですね(池上調)。

人感センサー

職員トイレに入る。人感センサーという照明なのですが、ボクが入っても点灯しないままだったり、いや、点きかかっては、やっぱりやめた、というように消えることがあります。ボクの存在はいてもいなくてもいいような、

あってもなくてもどうでもいいような、東急目蒲線のような存在なのか?と思った次第(むかし、「目蒲線物語」という歌がはりました。その一節です)。



しかしまたここで考える。スイッチに触れないのは、衛生的だ。これはいい。節電にもなるだろう。でも、一晩中うなりを上げて回っているトイレの換気扇のモーターの方こそ、一晩中点灯している照明よりだいぶん電気を食うのではなからうか。こちらはスイッチに触れなくては止められない。衛生と省エネ。なかなか両立は難しい。

写メ

そういえば、「写メ」って、なんの略だったろうか。先日テレビで、いまの若い人は「写メ」って言わないって言っていました。「写メ」なんて、おじさんのことばだと。へえ～。そうなんだ。

また、近ごろの新入社員はパソコンが使えないのだとも。もっぱらスマホでの文章作成で、卒論までスマホで書いた(打った)という強者までいるご時世なのだとか。スマホだって、メールなんか使わない。だから、句読点なんか打たない。LINEで句読点打つのは、やっぱり「おじさん」なのだとか。

え?若い人ほどパソコンや情報機器に慣れているんじゃないの?という発想こそが「おじさん」なのだそう。

いまの40代の方は、入社したての頃には、パソコンの使えない上の世代に教え、いまは、パソコンの使えない年下の世代に教えなきゃいけないのだそう。

まあ、でもみなさんは、WordもExcelも、もちろん、お手のものでしょ?

新聞切抜き読み

ここに上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です!
館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を!



▼「JR留萌線廃止決定 4市町合意」 北海道新聞 8/31(1面・社会面・翌朝社説)

明治43(1910)年に深川留萌間が開通して**112年**という歴史を持つ留萌本線。来年3月いっぱい、留萌～石狩沼田間、その3年後に石狩沼田～深川間と、2段階に留萌本線が廃止されることを、沿線4市町が受け入れたという。6年前、留萌～増毛間が部分廃止されているから、都合3段階に分けての完全廃止となる。一気にやめちゃうとダメージが大きいから、ちょっとずつ諦めていってもらおうと?

留萌からはかつて、増毛方面、深川方面に留萌本線、羽幌方面に羽幌線という国鉄線が、さらには天塩炭鉱鉄道(てんてつ)という私鉄が出ており、貨物輸送も盛んで、石炭列車は、ボクが子どもの頃数えた記憶では40両もの石炭貨車をSLが押したり引っ張ったり、ときには「二重連」というのだそうですが、SLが2両連結して引っ張っていました。冬はSLのさらに先頭に「ラッセル車」という、盾を横に2枚三角形に取り付けたような除雪車が、勢いよく雪をはね飛ばしながら走っておりました。小学校の休み時間にグラウンド横の線路をSLが通ると、鬼ごっこしていても汽車の煙で友だちの姿が見えなくなっていたものでした。



思い出深いのは、留萌をあさ9時台に出る「急行はぼろ(幌延始発)」という列車があり、お昼頃に札幌に着く直通列車なのですが、深川で「急行大雪(石北本線網走発)」「急行紋別(名寄本線紋別発)」と合体。3方面から来る列車を途中連結しながら札幌へ向かう恐ろしく長い列車があったこと。調べてみると何と13両編成だったらしい。下りはこの3方面行きの連結列車が午後5時台に札幌から出ていました。

乗る車両を間違えると、途中で切り離されるから大変なことに。札幌日帰りの用事があったとき、大学生時代の帰省、上京によく乗りました。もっと昔には小樽までの直通とか、旭川直通の準急列車、海水浴列車が走っていたそう。まだ国道が砂利道で、自家用車が普及していない頃の話だとは思いますが。

これで、支庁(振興局)単位では「檜山」「日高」に続いて「留萌」も鉄道のない管内になるそうです。本州並みにいえば、「鉄道のない県」に相当するでしょう。過疎化の勢いは止まりませんね。

たしかに、乗る人は少なくなったようです。一日の利用者数が90人。これでは存続は難しいでしょう。バスなら道路の使用はタダですが、鉄道は線路も駅も車両も除雪もぜ～んぶ鉄道会社持ちですもんね。かつて国鉄末期からJR発足直後に「営業係数」という数値が喧伝けんてんされていました。100円の収入を得るのにいくらの経費がかかるか。廃止前に日本一の赤字線といわれた**美幸線**は営業係数4700円超、輸送密度(1日あたりの輸送人数)は24人だったそう。でもなあ、バスも始発のバス停まで車庫から回送するとはいえ、留萌始発の列車を朝早く、永山の車庫から回送するというのは、50キロの営業運転のために90キロ回送することなわけで、そりゃ経費もかかるわなあ。上川だって、旭川まで50キロを営業運転するのに、永山から60キロ回送しているのだろう。利用者が増えなければ、鉄道の維持はこれからますます難しくなっていくに違いありません。

▼「タマネギ列車 今季も運行」 北海道新聞 9/5夕刊

生産量日本一を誇る北見地方のタマネギを運ぶJR貨物の臨時列車が、石北線・北見旭川間で始まった。貨車11両に55個のコンテナを積み、8月16日から一日一往復しているという。旭川から先は他の貨物列車などで全国へ。来年4月中旬までに**約20万トン**のタマネギを運ぶ。ドライバー不足や燃料費高騰の折、鉄道は輸送網の要とのこと。



石北本線はJR北海道が「単独では維持困難」と指定した8路線のうちの一つ。なくなったら、タマネギの値段も上がり、高級野菜になっちゃうのかねえ?ボクの生活圏には踏切があって、よく特急オホーツクや特急大雪に出くわすが、まず、車内に人影が少ない。え?回送列車?と思うようなこともしばしばです。

ちなみに石北線は、ことし開業90周年だそうです。この路線の中でも、留辺蘂・生田原間の**常紋トンネル**は難工事で、人柱が立てられたという話も伝わっています(演劇にもなっています)。この北海道の屋根を越えて結ぶ道路も鉄道も、先人の大変な苦勞の末に切り開かれたものです。**博物館「網走監獄」**(網走市)などで学ぶことができます。機会があれば是非。

そういえば、道南、函館～長万部間の函館線の存続が議論になっているようです。この区間は北海道新幹線ができるとJR北海道の経営から切り離される。ところが、簡単に廃線とか第3セクター移管という訳にもいかないらしい。JR貨物が、北海道から農産物を本州へ、本州からは宅配便、食料、生活物資、雑誌書籍などを北海道へ大量輸送する「大動脈」。いったいどうなっていくのでしょうか?(→9月23日朝日新聞関連記事)



▼「旭川電気軌道 値上げ」 北海道新聞 9/10

道北バスと競合しない路線の運賃を、10月1日から値上げするという。平均13.5%。理由は、利用者減少と、運転手の給与改善のため。とくに、運転手の確保は大きな課題らしい。高校生に関連するところでは、**マルパス**が5500円から6800円になるのは大きいかも。土日に150円を加算して乗れる制度が廃止され、代わりに土日でも乗れる**全日マルパス**というのが9000円で始まるらしい(いずれも旭川市内版。東川・東神楽のワイド版は別料金)。バスも利用者が減り続けているといわれています。たしかに、乗ってないなあ。これに運転手不足が拍車をかけて、減便、また減便、そして値上げの苦境です。

▼「赤字線でこ入れへラッピング車両」 「Kitaca利用エリア拡大」 朝日新聞 9/16

全国紙のローカルニュースですが、まず、国と道とがラッピング車両を購入し、JR北海道に貸与するという。赤字線区で運行し、利用促進につなげるねらいだそう。10月から石北線や富良野線、釧網線、花咲線などで走らせるようです。

また、これまで札幌圏(函館線と言えば岩見沢まで)でしか使えなかった ^{キタカ} Kitaca カードが、2024年春から岩見沢～旭川間でも使えるようになるそう。旭川にもやっと、来たか!



汽車通のみなさんは知っていると思いますが、ふだん通学時間帯の列車は2両編成でも、土日や夏休み中などは1両で走らせていますよね。経費節減の工夫なのでしょう。

人口はどんどん減ってゆきます。平成時代の旧センター試験(現・大学共通テスト)の出願者は60万人前後で推移していましたが、令和になって、1年間の出生者数自体が40万人です。この子たちが大学進学するころにはいったい共通テスト受験者は何人になっていることでしょう。高校の数も減っているのかもしれない。北海道の鉄道路線もどうなっていることでしょう。

▼「ディノス旭川最後の上映 別れ惜しむファン続々」 北海道新聞 9/20

鉄道・バスの廃止縮小の話が続きましたが、アミューズメント施設の廃止もありました。

大雪通にあるディノスが9月19日、とうとう閉館となりました。本校生がインタビューされていましたね。2003年から19年間の営業だったそう。数年前、2階のボウリング場が閉鎖されましたが、まさか映画館までもとは思いませんでした。

ボクの家から歩いて行けるところだったのでよく行きました。もうディノスで見ることはないかなあと考えていたら、最後の上映プログラムに「**鉄道員(ぼっぼや)**」がかけられるという新聞記事があったので、閉館2日前に見て来ました。混むかと思いましたが、観客は10人ほどでした。小樽の映画館で、たった一人、貸し切り状態で見たこともあります。

1999年製作とありましたからもう20年以上も経つのですね。この間、高倉健さんも、志村けんさんも、田中好子さん(スーちゃん)も亡くなりました。おまけに舞台となった「幌舞駅」は根室線の「幾寅駅」で、こちらも災害未復旧のままですが、そのまま廃線になってしまう恐れがありそうです。

きょうは無くなっていくものの話題が多くて、世の無常を感じざるを得ません。

『**鉄道員(ぼっぼや)**』 浅田次郎 集英社(単行本) ⇒作家別単行本の棚

漫画『**鉄道員(ぼっぼや)**』 浅田次郎原作 講談社(文庫版) ⇒漫画の棚

▼「都立高校入試論 英語民間スピーキングテスト導入へ」 朝日新聞 9/23

驚いた報道だ。都立高の英語の入試に、「スピーキングテスト」を導入するという。しかも、ベネッセが運営や採点を担当するという。民間会社が運営をになうスピーキングテストを高校入試に利用するのは、全国初だそう。テストは11月27日に、タブレット端末に向かって音読したり説明したりして録音、その音声をベネッセが6段階に評価するというもの。すでに95%(7万6千人)の生徒が申込み済みという。

「採点が公平か検証できない」などとして、中止を求める声もあるという。

全国に波及していくのだろうか?

・・・10月の道立高校は寒い! 定時暖房が入る直前の時期の校内はホントに寒い! 衣服を工夫しよう!

高文連の全道図書大会に、本校図書館員も参加してきました。そのお話はまた次号で。帰途、円楽(もと楽太郎)さんの訃報に驚きました・・・。

そうだ! 図書館へ行こう! そうだ! 本を読もう!!

三浦綾子記念文学館、井上靖記念館、旭川文学館にも行ってみよう!

(文責 伊丸岡圭一)